

次の文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。

自由民権運動は政府の弾圧や内紛などによって衰退し、1884年には自由山党が解党し、改進黨も大隈重信が離党するなど、困難におちいった。しかし、憲法発布・国会開設が近づくと、後藤象二郎らの大同団結運動で再結集をはかり、(1)外相の条約改正交渉の失敗を機に、(2)運動でふたたび活発になった。

この間、明治14年の政変で大隈重信らを下野させた政府首脳は、プロイセン流の憲法体制の構築をめざし、1882年、伊藤博文を憲法調査のため、ヨーロッパに派遣した。伊藤はベルリン大学の(3)やウィーン大学の(4)らに憲法理論を学び、翌年帰国すると早速、憲法制定の準備に入った。まず、1884年に華族令を公布し、将来の貴族院のための土台をつくり、翌年末には太政官制を廃止して内閣制度を創設した。また、政府と宮廷の別を明らかにし、宮中の官として、皇室事務を管掌する(5)と、天皇を補佐し詔勅のことなどをつかさどる(6)の制度を設けた。そして伊藤を中心に井上毅・伊東巳代治・金子堅太郎の協力と外国人顧問の助言を得て、憲法起草がすすめられ、1889年2月11日、大日本帝国憲法が発布された。

この憲法は(7)であり、天皇は神聖不可侵とされた。天皇の大権は、陸海軍の統帥、宣戦・講和・条約締結をはじめ、きわめてひろかった。憲法発布と同時に公布された衆議院議員選挙法によると、選挙権は直接国税(8)円以上をおさめる25歳以上の男子にかぎられた。しかし、これらの制約のなかで、政党は予算審議権と立法権を最大限に利用して、力量を大いに発揮した。1890年に実施された日本最初の衆議院議員総選挙では旧自由民権派が圧勝し、第1回帝国議会では、立憲自由党や立憲改進黨などの民党は「民力休養・経費節減」を唱えて、軍備拡張をいそぐ(9)内閣と激突した。次の第2回帝国議会における民党の激しい抵抗に対して、(10)内閣は衆議院解散で応じた。こうして、日清戦争面前の第6回帝国議会までの初期歳会は、民党と政府の対立が激烈であった。

〔語群〕

- (ア) 山県有朋 (イ) 伊藤博文 (ウ) 黒田清隆 (エ) 井上馨 (オ) 松方正義
(カ) 内大臣 (キ) 宮内大臣 (ク) 枢密顧問官 (ケ) 国約憲法 (コ) 欽定憲法
(サ) 対外硬 (シ) 三大事件建白 (ス) シュタイン (セ) ロエスレル
(ソ) グナイスト (タ) 10 (チ) 15

解答

- 1 エ 2 シ 3 ソ 4 ス 5 キ 6 カ 7 コ 8 チ 9 ア 10 オ